

24 世話人の感想

キリストの教会 蕨キリストの教会牧師 戸村 甚榮
牧師：29年 説教塾：5年 セミナー参加：20回

鎌倉セミナー世話人が見た、“主のあわれみ！”

昨年8月23日、加藤さゆり先生が地上の生涯を終え御元に帰られたので、加藤常昭先生のセミナー参加はかないませんでした。今年は全行程を塾生と共に歩んでくださいました。

セミナー途上の席で、先生はさゆり先生を神さまにお返ししてから、主の御後に従うところがまた特別なものになったと吐露されました。そのことばに、主と“主のあわれみ”に従う背がさらに色濃く見えました。また、各セッションの終わりの度、疲れきった体を椅子から立たせようと闘う姿は、主と“主のあわれみ”に従う覚悟の姿を見る思いでした。夜半同階の廊下でお会いし、“お疲れでは、”と聞くと、近く出版される著書の校正に取り組まなければとのご返事でした。ままならない体を抱え、そのもどかしい思いを断ち切り一途に主に従う姿がそこにありました。

私たちは課題のみことばから、“主のあわれみ”に満ちた招きを聴き続けました。それだけでは不足です。“主のあわれみ”で召された存在を見なくてはなりません。主イエス・キリストはそのことをもセミナーの仲間を通し実現してくださいました。特に、“主のあわれみ”の道標はお一人になり、痛みと疲れに襲われながらも幾度も立ち上がり、杖を用いながら主イエス・キリストの御後について行かれる先生の姿であったと思われました。

或る静まりきった夜、洗面所に杖がポツンと置かれていました。それを個室のドアの外に静かに戻しておきました。（わたしだけが見たことを記してよいものかどうかわかりませんがお許しを）ここに居られるさゆり先生、そして時には置き忘れることのある杖で、さらに主イエス・キリストの御後に従う先生の背をありがたい思いで見ました。

セミナー世話人が見た忘れ難い、“主のあわれみ！”と“召し！”の麗しさです。